

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

業所番号	290100106		
法人名	社会福祉法人青空会		
業所名	グループホーム青空倶楽部奥野館2階		
所在地	〒030-0841 青森県青森市奥野2丁目27番10号		
評価作成日	平成28年10月15日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人共通の理念と、毎年ユニット毎に管理者と職員でつくった理念を掲示している。日々実践できているかを日々の申し送りや職員会議で振り返りや確認をおこなっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩・行事、日常の買い物は近所の商店を利用している。また、回覧板に広報誌を差し入れさせていただき、町内の方に見ていただいております。今年の秋祭りは、開催の案内も回覧板に入れていただいた。町会の総会に毎年参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生やボランティア、職場体験・インターンシップの受け入れをしている。町内の回覧板に広報誌を入れさせていただき、事業所の活動を知っていただけるように努めている。地域ケア会議や包括主催の認知症カフェに参加させていただき、地域の方にお話をする機会をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者のサービス実施状況や外部評価・自己評価の報告をしている。避難訓練の立会い協力やそこでの助言もあり、サービス向上に活かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には包括職員に参加していただき、ケアの実際や取り組みについて伝えている。また助言もいただいている。また秋祭りの際には、包括職員にお手伝いに来ていただき、状況をみていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度、他ユニット職員1名が受講している。異動職員も含め、全員が学べるよう、年度内に勉強会を開く予定である。入居者1名において危険行為・時間に関係なく他者部屋への無断訪問等があり、やむを得ず興奮時に対する処方調整をしていただいている。職員は毎年の勉強会で正しく理解しており、全体で一日も早い拘束解除に向け取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度、他ユニット職員1名が外部研修を受講、自ユニット1名が講義講習を受けている受講した際の資料等を基に、年度内に勉強会を開き、職員全員が学ぶ予定としている。管理者・職員は日頃より注意を払っており、支援方法の振り返りをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度、他ユニット職員1名が外部研修を受講している。受講した際の資料等を基に、年度内に職員全員が学ぶ予定としている。利用者1名が成年後見制度を活用しており、管理者と職員は後見人とともに支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分にとり、事業所の理念やケア方針や取り組みなどについて、疑問点を尋ねながら説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱の設置をし、月に一度確認をしている。運営推進会議や面会時、懇親会などでご家族からご意見や要望がないかを伺っている。またご家族との会話中での気付きを管理者・職員が共有し、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員会議等で、職員の意見や提案を聞いている。意見を基に、働きやすい職場作りを目指している。代表者も行事や懇親会などに参加し積極的に聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は現場の状況や、職員の日々の努力や勤務状況を概ね把握している。各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の法人内外研修計画を作成し、職員が力量に合わせた研修を受ける事ができるよう、学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員に、同業者と交流する機会を積極的にもつよう努めている。外部研修の中や、その後の交流会を通じてなど、機会を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった際には、ホームを見学していただき面談をしている。可能であれば複数回、直接お会いして話を聴き、信頼関係を築くことを意識しながら対応をおこなっている。緊急的な入所の場合も、安心を確保するため、本人の様々な思いを聞き取れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった際には、可能な限り直接お会いし話を聞いている。家族が困っていること、不安なこと、要望などに耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際に、利用者のご家族の話をよく聴き、必要としているものが何かを見極めている。すぐに対応できることはおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で利用者が出来ることは職員が見守りながら行っていただき、一緒に笑ったり悩んだり本人の思いを共有しながら、一緒に生活をする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には相談や報告をまめにし、情報を共有する中で意見やアイデアをいただいている。ご家族の思いも把握しながらまたご家族にも協力していただきながら、共に利用者を支えていく関係となれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所を把握していて、身内に会う際は同行することもある。また、年賀はがきや書中見舞いでのやりとりや、馴染みの人との電話連絡を取り持っている。自宅への外泊や孫の結婚式への列席など、ご家族の協力も得ながら、支援できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握している。日々の生活の中で、利用者同士が関わりあい、支え合える様なきっかけ作りの支援に努めている。利用者同士でトラブルの際、介入が逆効果となることが多く、そのような場合は一人ひとりが孤立しないよう職員が寄り添い、心の支えになれるよう自演している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、可能であれば面会やお見舞いに伺っている。ご家族に関しても、できる範囲ではあるが、思いや要望に応えられるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの話す言葉や行動、また表情から、その思いを汲み取るように努めている。困難な場合でも、その時々希望や思いを実現できるように、ご家族から情報をいただくなどサービス提供に活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前・入所後も、利用者のご家族からお話を聞き、把握に努めている。新入居者に関しては、より詳しく利用者の思いを知る為に、これまでのサービス担当者等に話を聞くよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時々利用者一人ひとりの状態を観察しながら記録していき、現状の把握に努めている。一日2回の申し送り確認、月一度の職員会議で、全体として再確認している。状態変化が著しい場合は、その都度職員間で確認し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いと家族の意向、必要な場合は医療関係者の意見も聞きながら、職員会議で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を日誌に記録し、情報の共有をしている。細かなケアをおこなっていくためにも、日誌以外の情報共有ノートに小さな気づきなどを記入し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて、すぐ対応できるものに関しては素早く、また経過観察を必要とするサービスに関しても、ホームでできる範囲内で対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	秋祭りや避難訓練には、町内の方々に参加していただいている。行事の際は包括職員の協力を得て行っている。夏には町内の方の助けを借り、ラジオ体操に参加した。定期的に訪問散髪が来てくださっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医としている。ご本人の希望先のかかりつけ医や協力機関への外来通院や往診にて、適切な医療を受けられるように支援している。体調やお薬の変化について、毎月のお便りでご家族に報告している。また緊急性があると思われる場合は、その都度連絡をしている		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、月2回の定期訪問で日常の健康管理や医療活用の支援をしていただいている。また、協力医療機関への24時間相談も可能であり、体調変化時など医師へつないでいただき指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、ご家族と共に医師の説明を受けている。主に看護師に利用者の状態を用紙を用いたり口頭で伝えている。お見舞いに行き、利用者や家族と話をしながら現状の確認をし、ケースワーカーや看護師と退院に向けての情報交換や相談をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を作成している。プランについて話し合い時や利用契約時に、説明をしている。特にホームに医師、看護師は常駐していない事を伝えている。医療機関へも、本人の状況変化時など、定期的に家族の意向を伝えており、重度化・終末期について、医師・ご家族・職員で話し合い、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2～3年に一度、全職員が救急救命の研修を受講できるよう計画実施している。また、内部の勉強会では、2ユニットであること、AEDを準備することを意識して、会議など折をみて繰り返し、振り返りを行っている。また急変時や事故発生時の対応を振り返り、気づきを職員間で確認し、もしもの際に活かせるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度中に職員全員が、避難訓練に参加できるように計画実施している。訓練時には地域の方に立会いの協力をいただき、ご意見を頂戴している。訓練は、常に2ユニットであることを意識して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議の場で振り返りをおこなっている。気付きがあった場合は、口頭・申し送り後に会議にて、職員全員が「尊重すること」を正しく理解できるように学んでいる。また、その場その場の状況に適した言葉掛けや対応であるかを、日々管理者・職員間で話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聴いている。自身の気持ちを伝えることができる利用者に対して、できるだけ自信の言葉で発言していただけるよう働きかけている。自己決定が困難な場合には、可能な限り、表情などを観察しその思いを汲み取るようにしている。そのような場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時のペースで、利用者間の関係性に配慮しながら支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問散髪をうける方、髪飾りをされる方など、その人らしくおしゃれを楽しんでいる。鏡を見て整髪できるよう、リビング側の洗面所に個人別の櫛を置き、利用されている。普段からご自身でコーディネートできるよう声を掛けたり、ポイント部分などその人らしいおしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルの除菌や配膳・下膳、食事後の食器拭きなど、利用者と職員と一緒に後片付けを行っている。食事の準備は個々の持つ力に応じて、行なえるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は外部栄養士が作成している。変化があれば会議などで話し合い、一人ひとりの状態に応じて、食事形態や内容を変えて提供している。急な変化がみられた場合は状態に応じた対応をしている。水分摂取量が不足しないよう、提供飲料を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣や意向、状況を踏まえ、一人状態に応じて支援をしている。夜間は、義歯の浸け置き・洗浄をおこなっている。状態に応じ、歯科往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、その傾向を察知し、支援をしている。またその時の表情や行動から読み取って声掛けをすることで失敗を減らせるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	水分摂取量の調整と、食事形態を工夫している。毎日の昼食前に軽運動をおこなったり、個々に合わせた活動量(運動量)を組み、便秘予防に努めている。体の状態に合わせて、自然に近い形で排便ができるよう、かかりつけ医より調整していただく場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	その日入浴の気分ではない利用者の方には、無理強いをせずに、翌日以降声掛けをしたり、声掛けの仕方に工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの、その日その時の状況に応じて、休息できるように支援している。その時々で話を聞いたり、少量の食べ物や飲み物の提供をしている。本人が気持ちよく休めている場合は、席に座ったままで休んでいただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を所持し出し用の個別ファイルに最新のお薬情報をセットしており、いつでも確認できる様にしている。薬の変更時は、申し送り簿に必要事項を記入し、状態の変化を記録している。また、処方変更があった際は、日々の申し送りと、都度管理者と職員での確認している。月の職員会議で全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の嗜好品等を把握している。その時々利用者の状態や周囲の状況に配慮しながら、支援できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	洗濯干しや取込み、ご近所の散歩、外食など、利用者の希望や習慣を取り入れながら、外出できる機会をつくっている。ご家族の協力も得ながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	力量や状況に応じて支払いを支援をしている。ほとんどの利用者がホームでの立替の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望時以外にも、一人ひとりの状況に応じて電話の支援をしている。手紙やはがきは、一人ひとりの力に応じて自筆・代筆をおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激も利用者一人ひとりと同じではないので、職員が工夫と配慮をしている。ホーム内の装飾に、季節感を取り入れている。入居者と職員が作ったものや、地域の方やご家族、職員から頂いた植物を飾らせていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性に配慮しながら、思い思いに過ごせるように、居場所の工夫をしている。気の合う利用者同士が、お互いのお部屋で話をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたたんすや、家族の写真など居室に持ち込んで頂いている。本人の状況の変化に応じて、一緒に部屋作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	『できることやわかる』ことを、引き出すことができるようにしている。入居者の目線に案内版を貼るなど、場所がわかるように工夫している。		